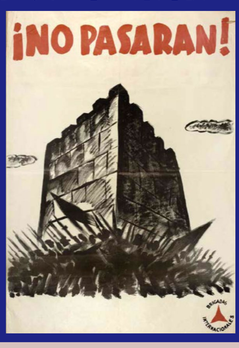
越境する地域紛争とソ連の軍事介入：イベリア半島の赤軍諜報部隊

井口　拓哉

北海道大学 大学院文学院
スラブ・ユーラシア学研究室



未来社会のあるべきかたち

✦紛争の国際的な解決

→現代において、地域紛争の影響は地理的な制約を乗り越え、世界中に波及している。したがって、いかなる紛争もわれわれ自身の課題となる。

✦複雑化する国際関係を理解する

→紛争を巡って国際関係は錯綜し、しばしば不透明となる。より平和で安定した未来のためにも予測可能性を高めることが、今後の人類的課題である

基礎知識：スペイン内戦(1936-1939)とは

- 右派の軍人(フランコなど)のクーデターによって発生
- 紛争の影響はヨーロッパを超えて世界中に拡大



研究上の課題

① ソ連の諜報機関が果たした役割とは？
→非公開の史料が多く、これまでは困難
②なぜソ連は内戦に大きく関与したのか(目的・関心)
→ソ連とスペインは地理的に遠く、また、これまでの関係も希薄

新たな刊行史料から赤軍諜報機関の活動内容を明らかにする



赤軍軍事顧問によるスペインの軍事改革

✓ ソ連は赤軍の諜報部隊を軍事顧問として派遣

- ソ連からの軍事物資、兵器の輸送をサポート
- 兵種ごとの学校、兵器生産のための工場設立
- 赤軍による軍事教育、戦争指導の実施
- 軍政治委員会を設置…スペイン政府軍内部の規律を強化
- スペイン国内の交通網を整備して物資の輸送を円滑に
- 軍需工場の組織化と中央政府による集中管理化
- 軍備人民委員部(注：委員部＝省)を設置
  →武器の調達に特化

…この他、反ソ連派の駆逐やプロパガンダ活動を展開し、ソ連にとって好ましい空気を醸成させていった

仮説と課題

✓ スペインは徐々にソ連の強い影響下に→ただし、しばしばソ連側と対立を引き起こしており、単純な上下関係とは言い難い
✓ ソ連はスペインにおいて勢力圏を確立しようとしていたのではないか
✓ 政治局(ソ連の最高意思決定機関)での政策決定はどのような過程をたどったか

本研究の社会的意義

紛争が国際化する過程、紛争を契機として国際関係が変容するメカニズムを知る手がかりとなる。
→現代において紛争には境界は存在せず、したがっていかなる紛争も我々の直接的な課題となる。